

◎今週の御言葉 「百人隊長のしもべの癒し」(創世記21章1節～21節、マタイの福音書8章5節～13節)

「主は、約束されたとおりに、サラを顧みて、仰せられたとおりに主はサラになさった。」(21:1)「主よ。あなたを私の屋根の下にお入れする資格は、私にはありません。ただ、おこぼを下さい。そうすれば、私のしもべは直ります。」(8:8)

◎イエス・キリスト様は神様のお言葉を語られ、御業を行われました。それに対する人間の応答が信仰告白なのです。イエスさまの喜ばれる応答とは何なのでしょう。

◎創世記21章には、イサクの誕生が記されています。神様はアブラハムとサラとの間に世継ぎを授けると約束されました(創世記12章)。しかし中々その約束が実現しなかったのです。時には信仰もよろめきました。誘惑も受け、人間的手段にも走ったりしました。しかし、神様は25年後に死んだと同様の身体に子どもを授け、世継ぎを誕生させてくださったのです。先にハガルとの間に生まれていたイシマエルは世継ぎではなかったのです。サラは「神はわたしに対して笑いを作られた」と告白しています(6, 17章)。神様にとっては不可能なことはなく、どの様な状況からでも御業を行う事がおできになる御方です。神様のお約束を信じましょう。

◎マタイの福音書8章の前半には「癒しの奇跡」が記されています。その中で特に「百人隊長のしもべの癒し」が今日の聖書箇所です。百人隊長は「古代ローマの軍隊の百人編成の部隊の隊長」です。一軍団は6千人で編成され、60の百人隊に分けられていたのです。当時、カペナウムの地方は国王ヘロデ・アンティパスの統治下にあつたので、彼はヘロデに雇われた百人隊の隊長であつたのです。彼が「自分のしもべが中風で、家でひどく苦しんでいます」とイエスさまに訴えたとの事です。するとイエスさまが「行って直してあげよう」と言われたのです。その時、百人隊長が「主よ。あなたを私の屋根の下にお入れする資格は、私にはありません。ただ、おこぼを下さい」と答えたのです。この信仰告白には「イエス様の言葉に対する絶対的信頼」を示しています。彼は、イエス様のことばを神のことばとして、神様の御心を確実に成し遂げると信じたのです。下級士官でも部下に命令する事が出来るのなら、一切の権威を与えられているキリストは、尚更そうであると信じていたのです。この百人隊長の信仰をイスラエルの民は期待されていたのです。しかし、今や、百人隊長と同じ信仰の異邦人キリスト者も祝福に預かれるのです。感謝しましょう。